

防災科研「夏休み防災教育」の実践

■はじめに

防災科研では、従来より、小学生から大学生、一般の方から専門家まで幅広く見学を受け入れ、防災教育の一翼を担っております。

その他に、毎年、夏休み期間中に小学生、中学生、高校生にターゲットを絞り込んだカリキュラムで防災教育を実践しております。

■小学生向け「つくば・ちびっ子博士」

つくば市教育委員会の主催で、つくば市や近隣の小学生が各研究機関をスタンプラリーしてまわり、科学技術に関心を高めてもらおうと実施されています。当研究所にも決められた日時に300名程度の子どもたちが来所します。

「Dr. ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」で、雪崩現象実験、建物の固有振動や地震時の地盤液状化現象などについて学びます。また、大型降雨実験施設で1時間に約200ミリの「豪雨体験」を行い、子ども達は、遊び感覚で、しっかりと、自然災害の怖さを体験していきます。



写真1 「ちびっ子博士」Dr. ナダレンジャーの実験教室

■中学生向け「ミニ博士コース」

茨城県教育庁が主催し、公募で選ばれた茨城県内の中学生が3日間の研修合宿するコースで、当研究所にも、15名の中学生が来所し、自然災害について学びます。

地震時の地盤液状化現象の観察、ペットボトル地震計の製作、火山噴火の起こる仕組みの聴

講、災害時のサバイバル・メンタキ体験などを通して、自然災害を学んでいきます。



写真2 「ミニ博士コース」地震の講義

■高校生向け「サマー・サイエンスキャンプ」

科学技術振興機構が募った全国の高校生がそれぞれの希望にあわせて45の研究機関へ3日間の日程で研修合宿を行います。当研究所には20名の高校生が自然災害について学びに来ます。

もともと自然災害に興味があり、さらに知識を高めようと来所する高校生達は、真剣に講義や実習に取り組んでいきます。



写真3 「サイエンスキャンプ」地すべりの講義

■未来の科学者たちの防災教育

防災科研の夏の防災教育は、どのコースの参加者も、猛暑にも負けず、研究員の熱心な講義や実験を通して「自然災害のおこる仕組み」や「それを知る技術」を学び、充実した3日間を過ごし、笑顔で帰って行くのが印象的です。

(企画部広報普及課 山科 忍)